

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101786		
法人名	特定非営利活動法人 ドリーム福祉介護支援サービス		
事業所名	グループホーム どリーむ荘		
所在地	〒851-2123 長崎県西彼杵郡長与町平木場郷517-5 (電話) 095-883-4100		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	平成20年2月7日

## 【情報提供票より】(平成19年9月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算	6.97人

### (2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺平屋 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円		その他の経費 (平均月額)	水道光熱費・管理費として 26,400 円
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無		有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(9月26日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	4名	要介護2	0名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	84歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎百合野病院・長与病院・女の都病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地より少し外れた静かな住宅街に、落ち着いた佇まいにある当ホームは、広い中庭には芝生が広がり、外気浴やランチなどが楽しめる。玄関より一步、中に入ると、自然の採光が明るく広がる。代表者は、施設介護に限界を感じ、家庭的な雰囲気の中で、自らの母親を介護していくことを決意し、ホーム建設に至った。代表者自ら率先して入居者のケアを実践しており、代表者と職員の連携が良く、楽しそうな、和気あいあいとしたアットホームな温かさがある。入居者には笑顔が見られ、表情も穏やかである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目のうち、理念は分かり易く玄関に掲げられており、便りの発行については2ヶ月に1度どリーむ新聞が発行され、ご家族へ届けられている。入居者を尊重した態度については、スタッフ会議で言葉遣いについての話し合いがなされ、お互いに注意しあっている。市町村との関わりでは、代表者がよく市町村に出向いているが、担当者不在が多くなかなか進展しにくい状況がある。しかし、ホーム便りを置かせてもらうなど市町村への働きかけを積極的に行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議で話し合われているが、評価の意義とねらいについては、職員に伝えられているとは言いがたい。自己評価は、全員で取り組むことで、職員のケアの意識合わせに繋がる事、日頃のケアの振り返りや見直しにつながる事、さらに改善点を明確にする事により、サービスの質の確保に活かせる事など、その意義を全員が理解し認識して取り組む事が出来るようになれば、更なる効果が期待できる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議はまだ開催されておらず、現在準備中である。会議メンバーには、運営推進会議の意義と役割を十分に理解してもらい、利用者・家族・地域住民・行政職員等幅広い参加を求め、ホーム側から自己評価の内容説明や、外部評価の結果公表をし、参加者から多くの意見を出して貰い、ホーム運営に反映するなど、質の改善・向上に向けた取り組みに期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関入り口に意見・苦情を書く用紙が置かれているが、なかなか書いて頂くまでには至っていない。苦情や意見があった時は、その都度会議が開かれ、その経過を記録し、ご家族へ報告されている。気軽な意見についても、対応した旨や、意見を出して頂いたお礼などが「便り」などを通じて報告されていれば、更なる意見の促しにつながると思われる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の活動状況など地域性があり、なかなか困難な現状にある。入居者が地域と繋がりがながら暮らしていく事を積極的に支えていく取り組みを再検討し、地域で必要とされる活動や役割を担っていくことがないか、事業所と地域の人々が支えあうような双方向関係が作り出されるにはどうしたらよいか等、運営推進会議や、市町村等とも連携しながらその構築が期待される。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「みんなで、一緒に、ゆっくり、楽しく」とこれまでの理念が掲げられている。しかし、地域の中で、その人らしく暮らし続ける事を支える地域密着型サービスとしての役割を目指した内容にまで及んでいない。		地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、これまでの理念を見直すなど、住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援が盛り込まれるような理念に作り上げることが望まれる。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関入り口に掲げられ、ケア会議の時などに、実践出来ているかどうかの振り返りが行われている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	避難訓練には近隣の協力が得られている。夏祭りなどの行事には、地域の方にパンフレットの配布、声かけがなされている。しかし自治会への参加等がなく、地域で必要とされる活動や役割を担うまでには至っていない。		地域住民の一員として、自治会・老人会に加入するなどして、リサイクル・清掃活動や地域の行事の情報を集め、それらに参加するなど、事業所と地域の人々が支えあうような双方向関係作りの構築に期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果は、スタッフ全員で話し合わせ、改善に取り組んでいる。しかし、自己評価・外部評価に取り組む意義などは、職員に明確に伝えられているとは言い難い。		自己評価は全員で取り組むことによって、職員の意識合わせに繋がる事、外部評価は日頃のケアの振り返りや、見直しが可能となり、具体的な改善に向けた契機となる事等、管理者は評価の意義を明確に伝え、全員がねらいや活用法をしっかりと理解して、サービスの質確保に活かしていくことが望まれる。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されておらず、現在準備調整中である。		運営推進会議は、利用者・家族等・地域住民・地域包括支援センターや行政の職員等、幅広い立場の人に積極的に参加してもらえるよう、その意義と役割を伝え、働きかけていくことが望まれる。又、自己評価の内容説明や、外部評価の結果公表をし、改善経過のモニター役になってもらうなど、一体的に活かしていく事での相乗効果に期待する。

グループホーム どりーむ荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、法制度の事、運営上の事、事務手続などで度々役場を訪れている。担当職員不在の事が多く、直接折衝できない事も多いが、粘り強く働きかけ続け、協働関係の構築に期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは季刊で発行され、請求時の文書と共に、ご家族の元へ届けられる。又、ご家族来訪時には声かけがなされ、時々状況などが伝えられている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口には、意見・苦情を書いて頂く用紙を設置しているが、なかなか利用はされていない。運営推進会議はまだ準備段階である為、公の場で家族の意見を言える場や家族が集まり話し合う家族会の発足にも至っていない。		広報やご家族への送付文書などに、「ご意見・ご要望等、いつでもお気軽にどうぞ」などの一文を付け加える工夫をしたり、運営推進会議開催の際に、ご家族への参加を呼びかけたり、家族だけで話し合う機会作りとして家族会を設置するなどの取り組みに期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には1ヶ月前までに退職の意思を聞き、引継ぎ期間を十分に取るような配慮がなされている。交代の新人職員には、旧来の職員が3日間研修・指導に当たっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度勉強会が行われている。担当者を毎月交代し、テーマ・進行は担当者に任されている。業務に必要な書籍の購入は補助があり、外部研修の推奨も適時ある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームケア研究会には、管理者が参加し、意見交換をするなど交流がある。職員は、ボーリング大会や外部研修を受講する中で他事業所との交流・連携がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、ご本人・ご家族にホームを見学してもらい、面談が行われる。馴染むまでは十分な観察が行われ、入居者同士がコミュニケーションを取れるように、職員が間を取り持つなど配慮がある。入居後1週間ほどは、十分に観察しながら、気付きは日誌に記載し全員に共有されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>昔の歌や、どいつなど教えてもらったり、なかなか笑顔が出にくい入居者が大きな声で笑ったりされると、職員も嬉しく笑顔がこぼれる。職員が落ち込んだりしている時など、入居者とおしゃべりしているうちに元気を取り戻し、明るくなれたり、「大変ねえ」「手間かけてごめんね」などと言われ、かえって癒されたりする事がある。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中で声をかけ、意向の把握に努めている。しかし、介護の為のアセスメントの記載はあるが、生活を支える為のアセスメントには及んでいない。</p>		<p>例えば、入浴中などリラックスした時に思わずつぶやくようなご本人の思いの言葉をとっさにメモしておき、後でアセスメントに記載し、記録を積み重ねるなど職員全員が、一人ひとりの思いや意向についての気付きを把握しようと努める事とその記録の積み重ねに期待する。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は担当スタッフより提案され、会議で全職員に意見を求めている。計画は、介護に主眼がありご本人の思いや意向の把握には及んでおらず、ご家族の同意が得られていない。</p>		<p>日頃の関わりの中で、ご本人・ご家族に思いや意向・意見を聴取しアセスメントとして記録に積み重ね、介護計画に反映する事、ご家族に説明し同意を得る事が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアチェック表において、一ヶ月の評価がなされ定期的見直しに繋げている。状況変化時は、再度意見交換して計画の見直しが行われている。</p>		

グループホーム どりーむ荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関とは、24時間連携体制が取られている。かかりつけ病院等への通院は柔軟に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から通院されていた医療機関へは、家族の協力で通院の支援がなされ、その後の連絡・報告の連携がある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた支援範囲は、病状変化に合わせて事業所として大筋、認識の統一をされている。しかし、ご家族への説明はあるが文書にて同意を得るまでには至っていない。		関係者全体で具体的内容など方針の統一を図り、終末期を迎えるにあたって、入居者がどこで最後を迎えたいか、どなたに看取ってもらいたいのか、どのようにして貰いたいかなど、ゆっくりとした最後を迎えて頂く為にも、早い段階からご家族に聞き取り、統一して、書面で同意を得ておくことが望ましい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導は、小さな声で耳元で名前を呼び、何気なく促されている。個人の記録は事務所で記載され、個人情報保護の配慮がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	CDや音楽・小説などが用意され、それぞれのペースを崩すことなく、趣味を楽しめるように支援されている。体調により食事のペースが遅くとも急がせることなく理解して見守り支援をされている。		

グループホーム どりーむ荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮をむく、野菜を切るなどの下ごしらえの手伝いや、テーブル拭き等、入居者ができる事を分担して行えるような支援をされている。食事中も楽しい会話で終始和やかである。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回を目途に、ゆったりとした時間が設けられている。午前中に病院受診が必要な時は、午後に入浴をする等入居者の希望や状況に応じ柔軟な対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみなどの役割がある。又、夏祭りや敬老会、誕生会など行事や地域の岳童太鼓の演奏などの楽しみの支援がなされている。2週間に1回訪問美容の支援がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日はできる範囲で、希望による頻繁な外出の支援がなされている。中庭で、日光浴をしたり、ランチやおやつを食べたりと短時間でも外へ出る支援につなげている。遠出のドライブや、花見などの支援もある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉より玄関までに細く長いアプローチがあり、広い芝生の中庭に続く。門扉に鍵が掛けられることはあるが、玄関を出ても中庭の散策で気分転換ができる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定した避難訓練は、消防署指導も含め、年2回行われている。近隣の車の整備工場、電気店の協力が得られている。しかし、水害、台風などの自然災害までは想定されていない。又、災害用品の備蓄には至っていない。		災害は、いつどのような時間帯に起こるかかわからず、地域に応じた具体的な想定が必要と思われる。又、事業所間での災害対策に関する話し合いや、具体的な支援体制の整備への取り組みや食料や飲料水、トイレ、寒さをしのぐ物品等の準備が望まれる。

グループホーム どりーむ荘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録する事により、一日の総量が把握されている。毎月の体重測定により体重の管理がなされている。水分確保については、一日の食事の際やおやつ時のお茶、服薬時等で水分が確保されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、綺麗なバラの花が飾ってあり心が和む。テレビの近くにはソファーやコタツが配置され、入居者同士ゆったりと話し合えるように配慮されている。室内はほどよい採光で明るく、入居者作品の飾り付けには人生の年輪を重ねた年長者にふさわしい物である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室によって、カーテン、仏壇、鏡台、タンス、椅子、家族の写真など、ご本人の馴染みの物・大切な物が持込まれており、その人らしい居室の支援がなされている。又、状況や希望により畳が敷かれており居心地のよさに配慮されている。		